

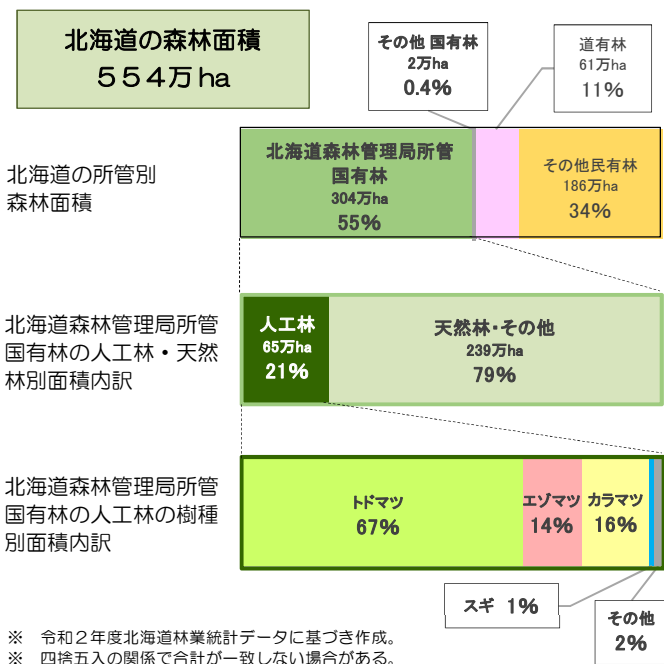
# 国有林材の安定供給について



資源活用第一課

資源活用第二課

## 北海道森林管理局所管国有林の状況



### はじめに

北海道森林管理局所管の国有林は約304万ヘクタールで北海道の森林面積の約55パーセントを占めています。そのうち約65万ヘクタールがトドマツやカラマツなどの人工林で、多くが利用期を迎えています。北海道森林管理局では、公益重視の管理経営を一層推進しつつ、地域における

木材安定供給体制の構築等を図るため、森林の機能に応じた施業の結果、得られる木材の持続的かつ計画的な供給に努め、地域の林業・木材産業の活性化に貢献することとしています。令和4年度は立木の販売量が約98万立方メートル、素材（丸太）の販売量が約81万立方メートルを計画し実行しているところです。

### 北海道産木材への期待と建築物への木材利用

令和3年6月に閣議決定された新たな森林・林業基本計画においては、森林を適正に管理・利用して2050年カーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」の実現を目指すこととしています。



トドマツ人工林

また、ウッドショックによる影響や海外情勢等により依然として輸入木材の供給が不安定な状況が続いていることから、国産木材の供給及び利用について期待が高まっています。

そして令和3年10月に「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（通称：都市（まち）の木造化推進法）が施行され、建築物における木材利用をさらに促進するため、対象を公共建築物から建築物一般に拡大されました。

木材は森林が吸収した炭素を貯蔵しており、木材を利用することで地球温暖化防止、脱炭素社会の実現に寄与することから建築物の木造化・木質化等が促進されているところと見られます。

北海道内においても木造の非住宅・中高層建築物等が建築されてきており、このようにして建築物の木造化が進んでいくことにより

北海道産のトドマツやカラマツ等において建築材（構造材）への利用の増加が期待されているところです。（左写真・札幌市に建設された高層木造ハイブリッドホテル）

### 国有林材供給調整 検討委員会の開催

北海道森林管理局においては、国産材を政策的に供給し得る国有林の優位性を活かし、価格急変時の供給



国有林材供給調整検討委員会

調整機能を発揮する目的で、四半期毎に「国有林材供給調整検討委員会」を開催しています。

この委員会では、学識経験者や林業、木材業界の団体、事業者等の外部有識者等が構成メンバーとなり、地域の木材の価格や需給の動向を把握・分析し、国有林からの木材の供給量や供給時期の調整が必要なのかどうかの検討等を行っています。

本委員会は令和4年9月

21日に今年度2回目の委員会が開催されました。

### 国有林材の安定供給の 取組について

同委員会での検討結果を踏まえ、好調な素材販売を中心に、生産した素材は計画的に販売しつつ、地域の実情に応じて柔軟に対応し、引き続き安定的な木材供給に取り組むこととしています。

また、大ロット（1万5千立方メートル程度）の物件を供給し、安定供給び木材流通の合理化の推進や、建築材への利用目的として、大径材物件を供給する安定供給システム販売等にも取り組み、トドマツやカラマツのサプライチェーン構築の推進を図っています。

さらにストックヤード等の中間土場を整備することで年間を通じて原木の供給や搬出が円滑に行えるような取組も進めています。



木造階の客室

RC造階の客室

### 【ザ ロイヤルパーク キャンパス 札幌大通公園】

2021年10月に開業した国内初の高層木造ハイブリッドホテル。

11階建て、1～7階はRC造、8階はRC造と木造のハイブリッド構造、9～11階は純木造となっている。

高耐久の壁パネルを開発・採用し、床にトドマツCLTを使用、下層階天井部には、打ち込み型の「配筋付製材型枠」を採用し天井にトドマツパネルが現しになっている。

木材使用量は約1,200㎡（構造材のほか内外装材も含む）で、そのうち北海道産木材は約960㎡使用している。

（写真提供：三菱地所株式会社）



ストックヤード（積丹町）